

聖句

「まことに、シオンの民、エルサレムに住む者よ
もはや泣くことはない。主はあなたの呼ぶ声に答
えて必ず恵みを与えられる。
主がそれを聞いて、直ちに答えてくださる」

イザヤ書 30 章 19 節

心からの感謝を込めて

日本キリスト教婦人矯風会女性の家HELPは、DV被害者や居場所のない女性たちの緊急一時保護施設である。在留許可のない外国籍の女性も、同伴児が複数名いる女性も受け入れている。生活保護受給者も受給者でない方も。2018年度の利用者の総宿泊数は2023泊。一日平均5人以上の方が利用されていることになる。

様々な困難のなかで、心も体も疲れ果てている女性たち。DV被害の中で必死に自分たちを守り、勇気をもって次のステップへ踏み出してくれた母親を子どもたちは大切に思っている。危険と不安の中で過ごしたであろう日々。女性の家HELP滞在中に子どもらしい笑顔が増えてくる。所在地を公表していない故、通学通園できない子どもたちを同年齢児に触れさせたいと、支援員は遥か離れた遊園地や児童館まで連れていく。思い切り遊んだ後の子どもたちの表情は爽やか。いただいた献金を用いて、外国籍の母子が水族館訪問を楽しんだ。

支援員、調理師たちや入所者全員から誕生日を祝ってもらう入所者たち。壁にはHappy Birthdayとの切り張りされた文字と色鮮やかな花や風船の絵。支援員たちが時間をかけて制作した作品。「おいしいね。このケーキ」はじめてのお誕生日会うれしい！」と目を輝かすのは子どもばかりではない。20代も60代も80代も同じ。夕食にはフードバンクや企業からの献品の食材を含めて調理師によっておいしく整えられた料理が並ぶ。

月に4回開かれるミュージックセラピーも、多くの入所者の楽しみ。経験を積んでいる専門家の来所を皆楽しみにしている。様々な国の様々な時代の歌を共に歌い、ベル、ギターその他、トーンチャイム、ジャンベといった珍しい楽器も登場。はじめは遠くで見ているだけだった方も、みんなの輪に近づき、歌い始める。「楽しかった！」との感想。ミュージックセラピーの経費も献金で賄われている。

月曜日から金曜日までかかってくる電話相談。心の問題やDV被害が主な相談内容である。日本語、英語に加えて、火曜日と金曜日はタガログ語、水曜日と金曜日はインドネシア語での相談に応じているが、その人件費の一部に各地から送られてくる献金を用いられている。老朽化して買い替えが必要となった電気器具や家具リネン等の購入に海外からの献金を充てさせていただいた。

日本各地、世界各地から、なんと多くの方々から献金を送ってくださっていることだろう。33年前の設立当初から赤字覚悟で始めたシェルター。人件費も膨らみ、老朽化に伴い設備費も増加。個人、教会、学校等の団体からいただく献金と会費で運営費を賄っているが、「安全で安心できる居場所の提供」を目的とする女性の家HELPのニードは大きい。

女性の家HELPの日々は、多くの方々の祈りと献金、会費や献品等に守られ、支えられていることを忘れることはない。

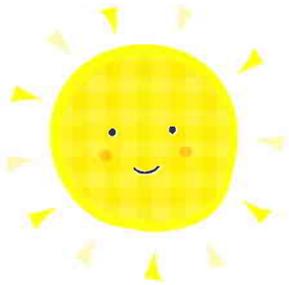
松井 弘子（施設長・施設担当理事兼務）





HELP での生活

緊急一時保護シェルターである女性の家 HELP は、利用する女性や子どもたちが、滞在期間は短期間ながら、一番混乱している困難な時期を安心・安全に過ごしていただけるような場所であることを目指しています。ここでは、24 時間 365 日の「衣」「食」「住」を支えている「日勤(支援員)」「宿直」「調理」の 3 チームからなる HELP スタッフの日々の業務の一端をご紹介します。



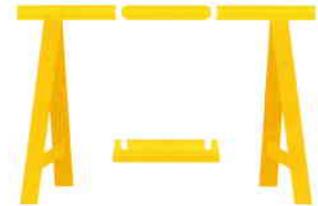
シェルターの日中の一コマ ～日勤スタッフより～

朝 9 時 30 分、日勤スタッフの出勤時間です。玄関のカギを開けて中に入ると、子どもが迎えてくれます。「おはよう」HELP での一日が始まります。朝食をとって自室に戻っている方、今まさに朝食をとっている方、それぞれの一日がすでに始まっています。

先日、HELP の中庭に二人乗りブランコが設置されました。もちろん、組み立て前の状態で、裁断された丸太とネジだけが届きました。スタッフ 2 人が解説書を見ながら右往左往していると、それを見かねて利用者さんの一人が手伝ってくれました。他の利用者さんもいつできるのかしらと興味津々、遠巻きにうかがっています。やんちゃな 5 歳児は丸太を運んだり、出来上がっているブランコの枠によじ登ったり、すでにいたずら書きしたり、とつてもにぎやかな時間でした。完成時にはさわやかな風が吹く中、みんなで童心に帰ってブランコを楽しみました。ブランコはカナダ合同教会 (The UCCanada) の寄付で購入させていただきました。ありがとうございます。

利用者さんは HELP には短期間しかいられません。その中で私たちスタッフは何ができるのか、試行錯誤しながら毎日を送っています。

日勤 (N・T)



美味しい食事を提供すること ～調理スタッフより～



HELP の食事は献立が決まっていません。毎日その日のキッチンスタッフが献立を考え提供しています。献立作りに悩むこともあります。献立が決まっていなかったことによってその日の様々な状況に食事の面に対応できる利点もあります。

ある日、外国籍の母子が入所してしばらくたった頃、慣れない生活に母親はとても疲れているようでした。前日の食事中、母国の料理の話をしていたので早速その料理を提供してみました。すると、その料理を口に運んだ瞬間、疲れ切っていた母親の表情がぱっと明るい笑顔へと変化しました。



一緒に食事し、ゆっくり過ごす ～宿直スタッフより～

日勤の職員からの引き継ぎが終わると、日勤者が翌日出勤するまでの十数時間、宿直者一人の務めになります。火事、救急、警察等への対応も一人で、という緊張感をもって日勤の職員を見送ります。調理スタッフが作り置きをしている夕食を一緒に摂り、他愛ない話で笑い、一緒にテレビを見たり、子どもたちがいるときには一緒に遊んだり、また、利用者の方が問わず語りに話すことに耳を傾けたりします。夕食後のひと時は一日の中でも一番落ち着く時ですし、今日の出来事を誰かと話したい時間帯でもあります。宿直の仕事である掃除やごみ処理の合間に、そのような時を一緒に過ごせることの幸いを感じています。



夜中に子どもが泣き止まず、安否確認に訪室したり、空調がおかしいとの訴えにエアコンを見に行くと、暑いさなか暖房になっていたり、といろいろなことが起こります。そのような夜が明けて朝食準備（目玉焼きかゆで卵を選んでいただきます）をし、皆さんとゆっくり食事をして、一夜の守りを神様に感謝して仕事を終えます。

宿直 (K・K)

HELP の生活に慣れてきた利用者から「〇〇が食べたい。」や「〇〇が嫌い。」と要望を直接受けることもあります。色々な不安を抱える利用者にとって不安な気持ちをぶつけるために一番伝えやすいのが食事への要望なのだそうです。その時にはなるべく約束はしないようにしています。突然退所が決まって約束が守られないことがあるからです。希望をすべて叶えることはできませんが、なるべく早く叶えてあげられるように努力しています。そして希望がかなった時の利用者の笑顔をそっとキャッチします。

私は何気ない会話や表情その方の本当に伝えたい思いを拾うことを大切にしています。なかなか難しいことですが支援員にその会話を伝えると本当に伝えたい思いや気持ちが見えてきます。私には気の利いた言葉をかけることも相談にのることもできません。できるのは美味しい食事を提供することだけです。その食事に入れた私なりのメッセージをなんとなくでいいから受け取って、その方にとっての普通を日常にするきっかけの一つにさせていただいたら嬉しいです。

調理 (M・O)





外国籍女性や子どもたちへのサポート

女性の家 HELP で受け入れている DV 被害女性、居場所を失った女性たちの中には、外国籍の女性や子どもたちもいらっしゃいます。その方たちは、外国籍であるがゆえに享受できる社会福祉サービスの内容が異なる等、日本人とは違う困難を抱えることがあります。

特に、シェルター入所前まで日本人との交流が少なかった女性や子どもたちにとって、シェルターは文化的・言語的安心感が一挙に失われ、生活空間すべてが「異文化」の場所です。そのような危機的状況に直面する外国籍女性や子どもたちの「居心地の良い空間」を少しでも拡大するため、女性の家 HELP では、早い段階でその女性たちの好む調味料や「食べ慣れたおかず」を食卓に整え、必要な衣類等を提供するよう心がけています。子どもたちには、自由に遊べる空間と「してはいけないこと」を年齢に応じて理解してもらえるようにします。そのように小さなことを具体的に積み重ねていくと、少しずつ外国籍女性や子どもたちの表情が豊かになっていきます。また、ミュージックセラピー（週1回）など、民族や言語に関わらず楽しめる非言語的な活動を一緒にすることを通し、他者への信頼関係を回復したり、自信を取り戻せるようサポートします。

その他、長年タガログ語やタイ語、英語など「母語による支援」を重視し、実践してきたノウハウを関係機関と共有し、それぞれの方に相応しい将来の計画へとすり合わせていくようにしています。

外国籍女性や子どもたちは、それぞれの文化や生活習慣をスタッフや他の利用者に教えてくれる「先生」でもあります。女性の家 HELP は、これからもお互いにさまざまな文化について学び合いながら、外国籍女性や子どもたちの新しい生活をサポートしていきます。

*現在、HELP ではタガログ語、インドネシア語、英語の母語支援をしています。

インドネシア語電話相談 始めました

HELP では、従来から外国語で女性に関する電話相談を行ってきましたが、この度、2019年7月からインドネシア語電話相談を始めました。悩んでいる女性や子どもたちからはもちろん、相談にのっている自治体等関係者からの問い合わせにも応じます。どうぞご利用ください。



相談曜日：水曜日、金曜日

相談時間：10:00～17:00

相談内容：女性に関する相談、DV やさまざまな虐待・暴力に関する相談、離婚や親権に関する相談、それらに関連した在留資格など

相談電話：03-3368-8855

Kini tersedia layanan konsultasi via telepon dalam bahasa Indonesia

Mulai bulan Juli 2019, HELP telah membuka layanan konsultasi via telepon dalam bahasa Indonesia. Selain wanita dan anak-anak yang sedang menderita, permintaan informasi dari pihak terkait yang juga melayani konsultasi, seperti pemda, pun akan kami layani. Silakan untuk menghubungi:

Hari : Rabu dan Jumat

Pukul : 10.00-17.00

Tentang : masalah wanita, kekerasan dalam rumah tangga (KRT) maupun berbagai pelecehan/penganiayaan/kekerasan lainnya, perceraian serta hak asuh anak, status tinggal/visa terkait, dan lain-lain

Nomor telepon : 03-3368-8855

HELP の活動をお支えください！



物品寄付

いつもさまざまな献品を頂き、スタッフ一同心よりお礼申し上げます。

女性の家 HELP では、利用者の方への日用品等のお渡しにあたり、それが「日々の生活に不自由のない」状況に留まらず、慣れた環境や人間関係から離れ、多くのお気に入り物品を失ってシェルターへたどり着いた女性や子どもたちが、十分な休息をとり、新しい生活に向けた「希望」と「意欲」を育むきっかけとなるよう心掛けております。皆様からお寄せいただいたお志を活かして、年齢や国籍・文化等に基づくおひとりおひとりの多様な必要に応じていけるよう今後も努力してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

《食料品》 調味料（砂糖・塩・醤油・サラダ油）、ジャム、お菓子、嗜好品（コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・ジュース・クリープ）
*賞味期限内の物

《日用品》 シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用洗剤、ティッシュペーパー、化粧水（中瓶）、乳液（中瓶）、化粧品、歯磨き粉（中サイズ）。

《衣料品》 大人・子ども用 - パジャマ、スウェット上下、靴下、部屋履き、ジャケット。
大人用 - パーカー、インナー（半袖、長袖）
*新品をいただければ幸いです。

《その他》 ベビーカー（新品）、サングラス、靴、ノート、 タオルケット、バスタオル（新品）、フェイスタオル（新品）、手芸用品（刺繍糸など）。



送付先：〒169-0073 新宿区百人町 2-23-5

日本キリスト教婦人矯風会気付 HELP 事務局

※月曜日から金曜日までの配達指定をお願い致します。

2019年度「女性の家HELP」クリスマス献金のお願い

クリスマスおめでとうございます。
皆さま、お健やかに過ごしていらっしゃいますか？
今年も、HELPを支えて下さる一人一人のお力により、
助けを求める女性や子どもたちへの支援活動が続けられますことを
心から感謝申し上げます。

2019年度はこれまでに日本の他、
フィリピン、インドネシア、コンゴ出身の女性46人と
子どもたち9人が緊急時の居場所としてHELPを利用され、
また悩みを抱える女性たちへの電話相談を継続しました。

配偶者による暴力や親からの虐待、不本意な遺棄等で居所を失い、
新生活を築くに時間のかかる状況の中で、
HELPを必要とする女性たちにふさわしい支援が届けられるように
スタッフ一同、努力を重ねております。

安全で安心できる“家”であり続けるために
老朽化の進む建造物の設備補修、家具等の新調等、
住環境の改善がますます求められています。

こうした必要に応え、HELPに与えられた社会的使命を全うするため、
クリスマス献金によるHELPへのご支援を
何卒よろしくお願い申し上げます。

2019年11月 公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会
女性の家HELP 女性福祉委員長・施設長(兼務)
松井 弘子

献金送付先

郵便振替口座：00110-5-188775 加入者名：女性の家HELP

公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会
女性の家HELP
連絡先 TEL 03-3368-8855